

2020 年度 神戸市外国語大学 特別選抜（帰国子女・外国人留学生）試験問題【小論文】

尊厳死の是非が議論されています。以下の状況のなかで、尊厳死についてどのように考えますか。あなたとは異なる結論・意見を想定したうえで、この問題に対するあなたの意見を800文字以内で答えなさい。

マサコさんは80歳代後半から、家の鍵や通帳をなくしたり、炊事の火を消し忘れることが重なったため、家族に勧められて、物忘れ外来を受診したところ、アルツハイマー病の初期段階との診断を受けた。彼女は自分の母親が認知症になって「悲惨な最期」を迎えたことを思い起こし、「自分は母のようにはなりたくない」と考え、事前指示書^(注)を認め、^{した}「認知症が進行して、何もわからなくなったら、延命治療しないでほしい。肺炎になっても抗生剤を処方せず、死なせてほしい。たとえ、そのときの私が“死にたくない”と叫んだとしても」と記した。

それから2年が経ち、マサコさんの認知症はかなり進行した。いまでは家族の顔もわからなくなった。それでも、必要な介護を受けながら、毎日おいしく食事をとり、眺めのよいリビングでくつろぎ、読書も楽しんでいる。よく見ると、本のページは適当にめくられている。

こんな穏やかでしあわせそうに見える時間が流れていたが、あるときマサコさんは肺炎になって高熱を發した。抗生剤で比較的簡単に治る見込みがある肺炎だった。

(松田純『安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定』中公新書 2018年 p. 121より引用)

(注) 事前指示書とは、病気が進行する前(本人の意思決定能力が失われていない状態)に治療に関する希望を表明したものである。